

伊里前地区復興まちづくり

復興みなさん会、一般社団法人 東北圏地域づくりコンソーシアム

伊里前地区への復興まちづくり支援活動として、地域に計画されている防潮堤・河川堤防・道路等について学び、意見を交わす“復興てらこ屋”と、柘沢地区への高台移転者の会合支援を継続的に実施した。

復興てらこ屋（全4回）の開催

■経緯・目的

伊里前地区で進められている、防潮堤・河川堤防・道路等の整備計画について、住民の理解が進んでいるとは言い難い状況であったことから、以下を目的に、それぞれの事業についての勉強会“復興てらこ屋”を、合計4回開催した。

- 国・県・町の担当者に事業計画について説明頂き、計画されている事業について住民が正しく理解する。
- 事業計画を踏まえて、住民自身が将来のまちのあり方を考え、住民同士で意見交換を行う機会をつくる。
- 意見交換を踏まえ、今後のまちづくりの進め方を考え、行政と共有する。

■実施概要

下記4回の会合で、のべ96名の地域住民が参加した。

- ◇第1回 伊里前川の河川堤防について考えよう(2012.11.8)20名参加
伊里前川の堤防整備計画説明(県気仙沼土木事務所)、意見交換
- ◇第2回 伊里前地区の防潮堤について考えよう(2012.12.14)29名参加
伊里前漁港の防潮堤計画説明(県気仙沼地方振興事務所)、意見交換
- ◇第3回 伊里前地区の道路について考えよう(2013.2.21)22名参加
県道町向弘川線の計画説明(県気仙沼土木事務所)、意見交換
- ◇第4回 どうする伊里前？どうなる伊里前？模型を見ながら話し合おう(2013.6.4)25名参加
防潮堤・河川堤防・道路の計画についての模型の確認、意見交換



■実施記録

終了後には、毎回記録を作成し、参加者や事業担当者と共有した。



■成果

■伊里前地区の復興計画や防潮堤・河川堤防・道路整備に関する住民の理解・関心が増した。

■様々な立場の住民同士が話し合う機会を多く設けたことにより、住民同士が互いの考えを知り、今後のまちづくりについて話し合うきっかけとなった。

■伊里前地区の復興事業は、今後は“伊里前まちづくり協議会”が主体となり合意形成を図ると決定され、将来まちづくり部会が具体的に検討を行うこととなった。

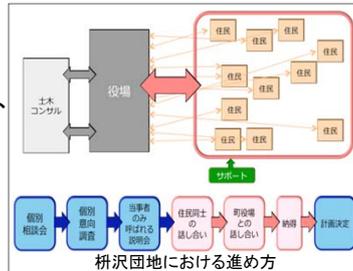
柘沢地区高台移転の会

■背景

防災集団移転事業が計画された多くの地区では、対象者に個別相談をした上で意向調査を行い、説明会で計画が決定するプロセスで進められている。町内外にバラバラに避難していて住民同士が集まりづらく、復興後のまちについて住民が主体となって考え提案するまちづくりの動きは起こりにくい状況である。

■概要

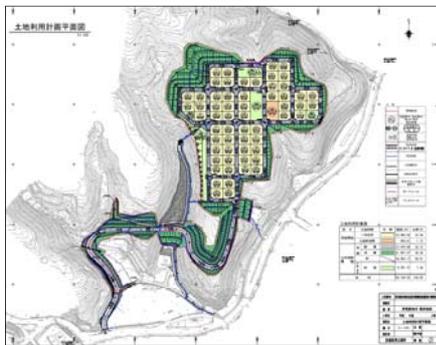
このような状況の中、柘沢団地では、住民同士が自主的に集まり、話し合い、町との協議を重ねることを通じて、移転者全員が納得する移転計画をまとめ、新しいコミュニティを形成することを目標としている。そのプロセスを継続的にサポートしている。(右図)



■会合の実施状況

当初は移転予定者のみで進めていた話し合いに、役場が加わり、これまでに20回以上に話し合いが続けられている。

計画図面は移転者の声にもとづき、10回以上も修正され、移転予定者の納得のプロセスを経て、柘沢団地の土地利用計画は決定された。



※会合の企画運営、進め方の提案、前後の打合せ対応、話し合いの進行、記録の作成などをサポートしている。

■成果

■高台移転を希望する住民による多様な意見交換を踏まえ、納得した上で、団地計画を策定することができた。

■話し合いのプロセスを通じて、住民・行政・コンサルの信頼関係を築けたことで、事業推進の基盤を構築できた。

■被災前は異なる地区に住んでいた住民が話し合いのプロセスを通じて交流を図り、コミュニティ形成のきっかけとなった。